

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目 次

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容	・・・・・・・・	1 頁
イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性	・・・・・・・・	1 頁
ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容	・・・・・・・・	2 頁
【資 料】	・・・・・・・・	9 頁

ア. 学則変更（収容定員変更）の内容

平成 32（2020）年度から、文学部歴史学科、文学科の定員を下記の表のとおり変更する。

学科名	現行：平成 31 年度		変更後：平成 32 年度		定員増加数	
	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	入学定員	収容定員
歴史学科	100名	400名	105名	420名	5名	20名
文学科	70名	280名	78名	312名	8名	32名
計	170名	680名	183名	732名	13名	52名

イ. 学則変更（収容定員変更）の必要性

<文学部歴史学科、文学科の沿革>

大谷大学は、寛文5（1665）年に東本願寺の寺内に創設された研究教育機関としての「学寮」をその淵源とし、爾来350年の伝統の中で、仏教精神に基づいた人間教育を行い、深く自己を洞察しつつ現代社会を主体的に生きることのできる人物を育成してきた。

現在の歴史学科と文学科は、建学の理念を象徴する真宗学科・仏教学科を支える重要な分野として旧制大学時代から重視され、昭和24（1949）年には新制大学の「文学部史文学科」として位置付けられた。次いで昭和29年（1954）には、大学院として「文学研究科仏教文化専攻」も設置された。昭和40（1965）年に史文学科は「史学科」（平成20年「歴史学科」と改称）と「文学科」に分立して今日に至っている。歴史学科と文学科は、とくに仏教史と仏教文学の両分野において、学界の中核を担う存在として多くの研究者を輩出している。しがたって、両学科は、当該学界においてもきわめて大きな役割を果たす存在といえる。

両学科が中心的教育・研究対象とする仏教文献についてみれば、本学の博物館・図書館には、国の重要文化財10件をはじめとする多くの貴重な文献を収蔵している。両学科は、その研究や公開の中核を担うものとして、これまで文化財行政にも大きな貢献をしてきた。近年、文化庁の京都移転に象徴されるように、文化による地方創生や文化財の活用等、新たな政策ニーズへの対応を進めるための大きな組織改編、構想が提示されている。両学科は、このような動向にも呼応しうるものであり、それを理解し、担うべき人材の育成を十分に果たしうる学科ともいえる。

<学部改組への取り組み>

本学では、これまでの歴史的経緯を踏まえ、近年の社会的要請に鑑み、平成24年度からの10年間の大学の行動方針をまとめた「大谷大学・大谷大学大学院・大谷大学短期大学部グランドデザイン」を策定した。その第2期計画（平成27年度-平成29年度）では、大学教

育の質的転換が問われるなか、学位課程ごとの教育の充実・強化をはかるため、百数十年間文学部のみ単科大学として歩んできた本学の伝統を止揚し、平成30年4月に新たに社会学部・教育学部を開設することを計画した。その結果、平成30年度現在の本学の学部学科構成は、文学部6学科（真宗学科、仏教学科、哲学科、歴史学科、文学科、国際文化学科）、社会学部2学科（現代社会学科、コミュニティデザイン学科）、教育学部1学科（教育学科）の3学部9学科となった。

＜学部改組による志願者の急増と収容定員増の必要性＞

クランドデザインによる様々な改編や平成30年度の改組は、本学の認知度を高める効果を生み、大学全体の志願者は、平成28年度3,002名から、平成29年度3,236名、平成30年度6,503名（対29年度比 2.01倍）、平成31年度 7,217名（対29年度比 2.23倍）と、3年連続で志願者が増加した（資料2）。志願者の増加は、新設学部において増加したのみならず、履修コースを刷新したことなどにより、文学部においても大きく増加している。なかでも文学部歴史学科と文学科の志願倍率は、歴史学科が平成30年度8.9倍、平成31年度10.2倍へ、文学科が平成30年度10.6倍、平成31年度12.9倍と2年連続で増加している。このことは、本学に大学教育の質的向上に取り組む活動に活気を生んだ反面、志願倍率の急激な上昇、特に一般入試において前年度との差が大きくなり受験生に混乱を引きおこした。平成31年度には、他の入試制度から若干名の定員を移行し募集人員の増員を図ったが、一部の改善しか図れなかった（資料3）。

従来より、本学の歴史学科と文学科には安定的な志願者層があったが、ここ2カ年の動向は、歴史や文学を中心とした日本文化への関心の高まりが背景にあるものと言える。今後さらに進むグローバル化時代においても、日本文化に関する十分な理解を基盤とした上での対話や交渉が重要性を増すものと考えられる。このような状況に鑑み、急激な変化を緩和して一般入試の志願倍率を安定させるとともに、当該研究分野の研究貢献をも踏まえた社会的な要請に積極的に応えるため、歴史学科の入学定員を5名、文学科の入学定員を8名増加し、両学科の充実を企図する（定員増後の一般入試志願倍率改善のシミュレーションは資料2を参照）。

ウ. 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

（ア）教育課程の変更内容

今回の学則変更（収容定員増の変更）は教育課程の変更を意図するものではなく、既の実施した平成30（2018）年度の文学部各学科のコース改編の年次計画のもとにある。今回の収容定員増を必要とする契機となった既改編の所以を含めて申述する。

【歴史学科】

歴史学科については、学習ニーズの動向をふまえ、現代社会で求められるグローバルな視点と、自分自身を見つめ直す地域的な視点の重要性を再確認することにより、従来の日本史・東洋史・歴史ミュージアム・交流アジアの4つのコースを改編し、平成30(2018)年度より、日本史・世界史・歴史ミュージアム・京都探究の4コースへと改編をおこなった。既存の日本史コース・歴史ミュージアムコースにおいても、歴史を観察する巨視的かつ微視的な捉え方は必要不可欠であるが、とくに世界史コースと京都探究コースは、そうした方法を具体的にあらわすものとして設置された。まず世界史コースでは、伝統的に研鑽されてきたアジアの歴史と文化・思想を核にしなが、境界を越えた世界へと歴史的につながり、広がっていくことをめざす。次に京都探究コースでは、本学が立脚する「京都」という地域の歴史と文化・思想を、通時的な時間軸と共時的な空間軸において捉えるとともに、地域としての「京都」のグローバリゼーションを探究していくことをめざす。以上のように、本学の歴史学科では、こうしたグローバルで地域的な双方向的視点から、歴史・文化・思想に関する課題や問題点に取り組み、自分の意見を発信していく力を養成する。

改編にあたっては、新コースの教育目標を達成するためにカリキュラムを改訂した。まず、学科全体に関しては、とくに第1学年に対して専門性を意識づけるために「史学概論」を導入した。ついで、世界史コースの新設に関する科目としては、専門の「演習」(ゼミ)の設置とともに、「西洋史学概論」「西洋史講義」の講義・概論系の科目、及び「西洋文献を読む」(実践研究)などの専門分野の史料講読を新たに開講した。同じく新設した京都探究コースについては、従来の「日本史学概論」や時代別の「講義」に加えて、新たに専門の「演習」(ゼミ)を設置したほか、地域としての京都を時間軸と空間軸で捉える「京都探究講義」や、地域の資料を具体的に取り上げて調査・分析する「京都探究調査演習」(実践研究)を開講した。

歴史学科のコース制は、学生の興味関心により、時代や地域・テーマ、そして研究方針が決められ、それに応じた演習(ゼミ)を選択することにより、4つのコースに所属する。平成30(2018)年度入学生のコース所属の予備調査では、日本史コース59名、世界史コース20名、歴史ミュージアムコース7名、京都探究コース10名となっており、ほぼ想定とおりの配分となっている。演習(ゼミ)の開講は、日本史コース5クラス、歴史ミュージアムコース2クラス、世界史コース3クラス、京都探究コース1クラスの計11クラスで開講されており、定員増後の105名が各コースに分属しても、各種指導や授業運営に支障はない。

以上の既改編の教育課程は、平成30(2018)年度入学生より滞りなく適用されており、現況に鑑みても5名の定員増加が教育内容に影響を及ぼすことはないと考えられる。

【文学科】

文学科については、学習ニーズの動向をふまえ、教育課程の明確化を企図したコース体制の改編を行なった。文学科は、国文学・中国文学・英文学・ドイツ文学の4コースによる体制であったが、このうち英文学・ドイツ文学の2コースについては、文学部国際文化学科における欧米文化コースと教育内容における類似性・重複性が顕著であった。また、従来文学科では第2学年次にコース分属を行ない、4コースのうち一つを選択する制度になっていたが、分属結果は特に国文学コースに偏る傾向が常態化してきた。平成30(2018)年度の状況を挙げると、第4学年79名のうち59名、第3学年76名のうち51名、第2学年108名のうち85名が国文学コースに在籍しており、これは文学科全体の学生数3分の2以上を占めている。

このような状況に鑑み、文学科は平成30(2018)年度改編によって、英文学・ドイツ文学コースを国際文化学科へ統合し、国文学・中国文学コースを日本文学・現代文芸コースの2コースへ整理することとなった。日本文学コースは古典文学を重視しており、従来の国文学コースにおける近代以前の内容と中国文学コースにおける漢文学の内容とを学ぶコースであり、従来の教育方針と相異はない。その一方で、現代文芸コースは近現代文学を重視し、従来の国文学コースにおける近代以後の内容を学ぶことに加え、文芸創作の観点から文学を学ぶ内容を具備することで新機軸を打ち出した。なお、本学は、平成27(2015)年度から、文芸創作の観点において多様な文章実践を学ぶ「文藝塾」を文学科主幹によって全学的に組織しており、現代文芸コースはこの実績の上に文藝塾と連携した教育課程編成を行なっている。この新たな2コース制は、従来の4コース制とは異なり、縦割りの各々独立した制度ではなく、カリキュラム上一本化されて学科を構成するものであって、各コースは学生の主体的な研究方針を意味することとなる。すなわち、文学科の教育課程は従来よりも単純化され明確に捉えられるものとなった。

以上の既改編の教育課程は、平成30(2018)年度入学生より滞りなく適用されており、現況に鑑みても、10名未満の定員増加が講義・実践研究・演習(ゼミ)等の教育内容に影響を及ぼすことはないと考えられる。学科の根幹となる各学年必修科目の「文学科演習」や先述の文藝塾と連携した「文藝塾実践演習」等、文章実践に関して個別的な対応が必要な演習科目についても1クラス20名規模の編成が可能である。なお、少人数教育を要するクラス編成は従来弾力的運用を旨としており、受講希望者数の偏向に際しては柔軟なクラス増減により少人数制を堅持し得てきた。今回の収容定員変更による10名未満の定員増加は、変更前に比しても学生指導上の問題は想定されず、教育の質は十分確保されることが考えられる。

(イ) 教育方法及び履修指導方法の変更内容

【歴史学科】

卒業要件及び履修方法は、必修科目を含めて、「共通基礎科目」22単位以上、「現代総合科目」12単位以上、「学科専門科目」66単位以上を修め、合計124単位以上を修得することとしている。

学生の興味関心にてらした体系的な履修計画を立てられるよう、所属する演習（ゼミ）の担当教員が指導教員となり履修指導をおこなっている。また、第2学年進級時に学生が自らの研究テーマや研究方針にそってコースが選択できるよう、初年次教育の一環として「史学概論」を新設し、各時代や地域、研究テーマ、具体的な史料の取り扱いなどを6人の専任教員がチェーンレクチャー形式で詳述している。歴史学科では、4年間の学習成果の総括を約2万字からなる「卒業論文」に取りまとめることとなっている。その履修・研究指導は、演習（ゼミ）の授業や授業外のオフィスアワーなどの機会をとって、指導教員が取り行っている。

以上の如く、教育方法及び履修指導方法に関しては、従前からの方策において十分な体制が確保し得ていると考えられ、今回5名の定員増加をおこなったとしても、そのための別途施策を講ずる必要はないと考える。

【文学科】

卒業要件及び履修方法は、必修科目を含めて、「共通基礎科目」22単位以上、「現代総合科目」12単位以上、「学科専門科目」66単位以上を修め、合計124単位以上を修得することとしている。教育課程は、前項(ア)記載の通り、2コース共通の科目群において各々の学習目標・方針に則して主体的に設定される場所であるが、収容定員変更後も学生指導に関して問題はない。これは、前項(ア)記載における教育課程の明確化はもとより、履修指導に係る制度と相俟って確保されるものである。

履修指導に関しては、学生が自らの方針によってコースを選択し、自らの目標を達成し得る体系的な履修計画を立てられるよう、初年次及び各年次に実施する履修ガイダンス以外に、各年次必修科目の「文学科演習」クラス担当者による指導教員制を実質的に運用し、オフィスアワーを中心として学生の個別面談を実施している。特に大学の制度に慣れていない初年次学生に対しては、文学科演習の開講初期を履修指導に充て、個別面談を義務化して履修方針と方法とを周知徹底している。また、教員職員共同のICTシステムを活用することにより、指導教員として担当する学生の履修・成績状況における問題の早期確認が可能であり、適宜必要に応じて学科全体で問題解決に向かう体制が構築されている。

以上の如く、教育方法及び履修指導方法に関しては、従前の方策において十分な体制が確保し得ていると考えられ、今回10名未満の定員増加のために別途施策を講ずる必要

はなく、これまでの取り組みを真摯に継続することが学習支援体制の維持・向上のために不可欠であると考えられる。

(ウ) 教員組織の変更内容

【歴史学科】

教員組織については、平成 30 年度のコース改編と同時に、新任教員の増員と他学科からの移籍やコース間の移動など見直しをおこなった。具体的には、西洋史コース及び日本史コースに専門の教員を 1 名ずつ増員し、あわせて開設したコースと関連する専門科目を担当することにより、歴史学科全体の教育水準の向上を図った。平成 31 年度の配置数は、教授 8 名、准教授 1 名、講師 2 名と、助教 2 名の 13 名体制で、大学設置基準で定められている必要専任教員数及び教授数を上回っており、十分な履修指導・学習支援体制が可能であるため、今般の収容定員増にともなう教員組織の改編はとくに考えておらず、現行の体制を維持していく方針である。

【文学科】

平成 31 年度の配置数は、新体制への移行措置期間中であり、旧文学科の所属教員（英文学系教員 4 名）を除くと、教授 5 名、准教授 2 名、講師 2 名、助教 1 名、計 10 名による組織である。向後、助教 1 名の増加が見込まれており、また定年退職者の後任人事も予定されているが、現況編成は維持する計画であって、現況において教育水準の質は確保されており、収容定員増加による授業時間数の増加等の負担増は生じないため、教員組織は現行を維持することになる。

今回の学則変更に伴う収容定員の増加において、大学設置基準に定める教員数は、現況において優に基準を上回っており、十分な履修指導・学習支援体制が可能であるため教員組織の変更は行なわないが、既述の方策によって変更前同等以上に教育の質が確保されるよう努めることとする。

(エ) 大学全体施設・設備の変更内容

今回の歴史学科・文学科の収容定員 52 名の増員に係る、校地、運動場及び校舎等の施設については、平成 31 年度学生募集を停止した大谷大学短期大学部(必要校地面積:1,600 m²、必要校舎面積:2,350 m²)を併設し共同利用しているが、現在整備している校地、教室・演習室、教員研究室、研究室(自習室)等で十分対応可能であり、新たな整備は考えていない。

校地、運動場及び校舎並びに図書館等の概要

本学の本部キャンパスの校地は 44,009.67 m²で、京都市内の北部、京都市営地下鉄北大

路駅徒歩 3 分の交通至便な位置に立地している。教育研究活動はすべて本部キャンパスにおいて実施している。

運動場、体育施設やセミナーハウスがある湖西キャンパスは滋賀県大津市に所在し、公共交通機関を用いて約 50 分の距離にある。本部キャンパスと湖西キャンパスを結ぶスクールバスを運行しており、主に課外活動やセミナーハウスでゼミ合宿を行う学生たちが利用している。運動場は湖西キャンパスにグラウンドとサブグラウンドを有し 30,123.05 m²となっている。また本部キャンパスには 3 階建て延べ床面積 4,857.06 m²の体育館がある。

本部キャンパス内には、キャンパス各所に休息所とベンチが設けてあり、空き時間を利用して、学生同士、教員と学生が休息し対話をするスペースとなっている。また後述する新教室棟「慶聞館（きょうもんかん）」には、学生達が休息のために自由に利用できるカフェを常設した学生ロビーのほか、サブゼミやミーティングに自由に使用できるアクティブ・ラーニングスペースを各階に配置し、目的に応じて利用できる開放的なスペースを確保している。また、既存建物の講堂棟には学内食堂やコンビニエンスストアを整備している。

本部キャンパスには、1号館、2号館、4号館、5号館、尋源館（じんげんかん）、博綜館（はくそうかん）、響流館（こうりゅうかん）、および平成 30 年 4 月にグランドオープンした新教室棟慶聞館の 8 つの校舎を設置し、校舎面積は全体で 55,209.17 m²となっている。教室数は 164 室、大学・大学院・短期大学で利用している教室稼働率は平均 35～36%となっている。

慶聞館は、大学に求められる多様な学びを実現するための諸機能を配備している。1階中央部には、多くの学生たちが集う広大な「学生ロビー」を設置し、その周囲には学習サポートセンター（語学学習支援室、学習支援室、文藝塾）、学生支援部事務室（学生支援課、キャリアセンター、教務課）を有機的に配置している。この学生ロビーを学習活動の起点として、2階～5階の各教室、各階に 3ヶ所ずつ設けられたアクティブ・ラーニングスペースである「マルチスペース（休息・グループワークやミーティングに利用できる開放的なペース）」や、4・5階の教員の個人研究室にスムーズにアクセスできるように配置している。また慶聞館 4階と総合研究室、図書館・博物館を配置する響流館をブリッジにより連結することで、教育・研究活動の接続性を向上させている。各教室は、大・中規模の教室とともに、ゼミやグループワークに対応できる小規模教室を多く配置し、さらに自由な学習空間の創出が可能となる高機能教室も設け、アクティブ・ラーニングの取組にも対応が可能となっている。また教室には多様なプレゼンテーションが実現できるように全教室にプロジェクターを整備し、PCをはじめスマートフォンやタブレットなど様々なデバイスが接続できる環境を整備している（資料 4）。

図書館は、教育学部、文学部、社会学部及び大谷大学短期大学部との共用施設である。

3,301 m²の閲覧室と 3,058 m²の書庫を有し、閲覧席は、図書館に 588 席、接続する総合研究室に 465 席ある。館内には、多目的利用が可能な各種閲覧室、検索端末、AV コーナー、自動貸出機、マイクロフィルムリーダー、コピー室など必要な機器・設備を備え、また障がいのある利用者の利用に対応できるよう各種バリアフリー機器を整備している。

また図書館は、本学及び本学短期大学部に設置する専門分野の図書資料を中心に、網羅的な蔵書構築を推進している。専門分野ごとの収書方針を立てるとともに、シラバス記載の参考図書を整備するなど、教育研究に不足のない収書に配慮している。現在、図書資料の収蔵数は 846,796 冊、学術雑誌約 6,500 誌であり、その他、各種データベース・電子書籍、電子ジャーナル、視聴覚資料など各種資料を整備している。一部の図書は、各室の設置目的に合わせて総合研究室、短期大学部研究室、人権センター、教職支援センターにも配置されており、利用者の利便を図っている。

各種収蔵資料は、Web による検索システム「大谷大学図書館情報検索システム」の OPAC (Online Public Access Catalog オンライン蔵書目録) による検索が可能である。OPAC は学内外の Web 接続 PC より 24 時間検索が可能で、学内のみならず自宅等における研究・学習にも資するものである。なお、OPAC からは Web を介して国立情報学研究所の目録 DB や他大学・研究機関や国立国会図書館など各種図書館の情報検索システムにもアクセスすることができ、各種学術情報の取得も容易である。「大谷大学図書館情報検索システム」は図書館情報管理システムの一機能であり、図書の貸出/返却をはじめとする図書館各種業務が一元的に可能となっており、利用者各人は Web 上にポータルサイトをもつことができる。古典籍資料の一部は、大学 HP「古典籍データベース(試行版)」にデータを蓄積し公開中であるが、大半の資料は冊子目録により検索可能である。また、電子ジャーナル、各種データベースなどのデジタル・コンテンツについては、図書館以外の学内施設(情報処理教室、各研究室、教員個人研究室等)からアクセス可能な利用環境を整備するなど、利用の便が図られている。

学外機関との協力体制については、私立大学図書館協会や日本図書館協会に加盟し、国立情報学研究所の目録所在情報サービスに参加しているほか、国内外の教育研究機関と ILL (Interlibrary Loan 図書館間相互貸借) を実施しており、大学図書館はじめ各種研究機関との間において、資料閲覧、現物貸借、文献複写を実施している。他機関所蔵資料の利用希望に際し、本学構成員は OPAC のポータルサイトを利用して Web 上で各種申請が可能である。

以上により、大学全体の施設・設備については、52 名の収容定員増を実施した場合においても、教育研究活動を十分に展開することが可能であると考ええる。

添付資料 目次

- ①別記様式第2号（その2の1）
[文学部歴史学科] [文学部文学科] 【資料 1】

- ②新学部設置前後の学部・学科ごとの志願者数と志願倍率の推移
. 【資料 2】

- ③文学部歴史学科・文学科 一般入試制度ごとの募集人員
・志願者数・志願倍率の推移と改善予測
. 【資料 3】

- ④新教室棟「慶聞館（きょうもんかん）パンフレット」
. 【資料 4】

教育課程等の概要															
(文学部 歴史学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合科目	人間学Ⅰa	1前	2			○			1					兼2	
	人間学Ⅰb	1後	2			○			1					兼2	
	人間学Ⅱ	2・3・4前・後	2			○								兼18	
大学導入	学びの発見	1前	2				○				1				
必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰa	1前	1				○							兼34
		英語Ⅰb	1後	1				○							兼34
		ドイツ語Ⅰa	1前	2				○							兼5
		ドイツ語Ⅰb	1後	2				○							兼5
		フランス語Ⅰa	1前	2				○							兼3
		フランス語Ⅰb	1後	2				○							兼3
		中国語Ⅰa	1前	2				○							兼8
		中国語Ⅰb	1後	2				○							兼8
		韓国・朝鮮語Ⅰa	1前	2				○							兼4
	韓国・朝鮮語Ⅰb	1後	2				○							兼4	
	外国語Ⅱ	英語Ⅱa	2前	1				○							兼18
		英語Ⅱb	2後	1				○							兼18
		ドイツ語Ⅱa	2前	2				○							兼2
		ドイツ語Ⅱb	2後	2				○							兼2
		フランス語Ⅱa	2前	2				○							兼1
		フランス語Ⅱb	2後	2				○							兼1
		中国語Ⅱa	2前	2				○							兼3
		中国語Ⅱb	2後	2				○							兼3
韓国・朝鮮語Ⅱa		2前	2				○							兼2	
韓国・朝鮮語Ⅱb	2後	2				○							兼2		
共通基礎科目	選択 外国語	英語読解（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語読解（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語読解（中級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語読解（中級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英作文（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英作文（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英文法（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英文法（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語のしくみと表現（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語のしくみと表現（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語会話（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語会話（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語会話（中級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語会話（中級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語会話（中級）5	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語会話（中級）6	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語読解（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語読解（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語読解（上級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語読解（上級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語会話（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語会話（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英語会話（上級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英語会話（上級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英作文（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英作文（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		英文法（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1
		英文法（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1
		インテンシブ英会話（中級）1	1・2・3・4前	4				○							兼4
		インテンシブ英会話（中級）2	1・2・3・4後	4				○							兼4
カナダ文化研究・実践英語	1・2・3後	4				○							兼2	集中	
ドイツ語読解（初級）1	1・2・3・4前	1				○								兼1	
ドイツ語読解（初級）2	1・2・3・4後	1				○								兼1	
ドイツ語会話（初級）1	1・2・3・4前	1				○								兼1	

教育課程等の概要																
(文学部 歴史学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通基礎科目	選択外国語	ドイツ語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		ドイツ語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		ドイツ語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		ドイツ語読解（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		ドイツ語読解（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		フランス語読解（初級）	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		フランス語会話（初級）	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		フランス語読解（中級）	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		フランス語会話（中級）	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		フランス語のしくみと表現（上級）	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		フランス語のしくみと表現（初級）	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		中国語読解（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語読解（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国語会話（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国語会話（初級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語会話（初級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国語会話（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語会話（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国語会話（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		中国語会話（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		中国文化事情・実践中国語1	1・2・3・4後	4				○							兼1	
		中国文化事情・実践中国語2	1・2・3・4後	4				○							兼1	
		韓国・朝鮮語会話（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語読解（中級）	1・2・3・4後	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語会話（中級）	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		韓国・朝鮮語読解（上級）	1・2・3・4前	1				○							兼1	
		韓国文化研究・実践韓国語	1・2・3・4後	4				○							兼1	
現代チベット語 a	2・3・4前	1				○							兼1			
現代チベット語 b	2・3・4後	1				○							兼1			
ラテン語入門1	1・2・3・4前	1				○							兼1			
ラテン語入門2	1・2・3・4後	1				○							兼1			
ヒンディー語 a	1・2・3・4前	1				○							兼1			
ヒンディー語 b	1・2・3・4後	1				○							兼1			
小計（97科目）			—	136	0	0	—	—	—	1	0	1	0	0	兼92	
学科専門科目	演習	歴史学演習Ⅰ a	1前	2				○			3		1			
		歴史学演習Ⅰ b	1後	2				○			2	1	1			
		歴史学演習Ⅱ a	2前	2				○			8	1	2			
		歴史学演習Ⅱ b	2後	2				○			8	1	2			
		歴史学演習Ⅲ a	3前	2				○			8	1	2			
		歴史学演習Ⅲ b	3後	2				○			8	1	2			
		歴史学演習Ⅳ a	4前	2				○			8	1	2			
		歴史学演習Ⅳ b	4後	2				○			8	1	2			
	小計（8科目）			—	16	0	0	—	—	—	8	1	2	0	0	0
	概論	日本史学概論1	2・3・4前	2				○			1					
日本史学概論2		2・3・4後	2				○					1				
東洋史学概論1		2・3・4前	2				○			1						
東洋史学概論2		2・3・4後	2				○			1						
西洋史学概論1		2・3・4前	2				○								兼1	
西洋史学概論2		2・3・4後	2				○								兼1	
史学概論1		1・2前	2				○			8	1	2				
史学概論2	1・2後	2				○			8	1	2					
小計（8科目）			—	16	0	0	—	—	—	8	1	2	0	0	兼1	

教育課程等の概要															
(文学部 歴史学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学科専門科目	A	日本古代史講義1		2		○			1						兼1
		日本古代史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		日本中世史講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		日本中世史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		日本近世史講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		日本近世史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		日本近現代史講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		日本近現代史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		中国古代史講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		中国古代史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		中国中世史講義1	3・4前	2		○									兼1
		中国中世史講義2	3・4後	2		○									兼1
		中国近世・近代史講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		中国近世・近代史講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		西洋史講義1	2・3・4前	2		○				1					
		西洋史講義2	2・3・4後	2		○				1					
		歴史学特殊講義1	2・3・4前	2		○									兼1
		歴史学特殊講義2	2・3・4後	2		○									兼1
		歴史学特殊講義3	2・3・4後	2		○									兼1
		歴史学特殊講義4	2・3・4後	2		○									兼1
	歴史学特殊講義5	2・3・4前	2		○									兼1	
	歴史学特殊講義6	2・3・4後	2		○									兼1	
	B	日本民俗学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		中国仏教史	1・2・3・4後		2		○								兼1
		日本仏教史	1・2・3・4前		2		○			4		2			
		真宗史	2・3・4後		2		○			1					
		文化交流史	2・3・4後		2		○								兼1
		京都の歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
		歴史地理学1	2・3・4前		2		○								兼1
		歴史地理学2	2・3・4後		2		○								兼1
		考古学1	2・3・4前		2		○								兼1
		考古学2	2・3・4後		2		○								兼1
		美術史1	2・3・4前		2		○								兼1
		美術史2	2・3・4後		2		○								兼1
		古文書学概論1	2・3・4前		2		○								兼1
		古文書学概論2	2・3・4後		2		○								兼1
		建築史1	1・2・3・4前		2		○								兼1
		建築史2	1・2・3・4後		2		○								兼1
		博物館概論	1・2・3・4後		2		○			1					
		博物館資料論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		文化財概論	1・2・3・4前		2		○								兼1
		文化財保存科学論	1・2・3・4後		2		○								兼1
	博物館教育論	2後		2		○			1		1				
	京都探究講義1	2・3・4前		2		○					1				
	京都探究講義2	2・3・4後		2		○					1				
	C	人文地理学3	2・3・4前		2		○								兼1
		人文地理学4	2・3・4後		2		○								兼1
		世界地誌学3	2・3・4前		2		○								兼1
世界地誌学4		2・3・4後		2		○								兼1	
自然地理学1		1・2・3・4前		2		○								兼1	
自然地理学2		1・2・3・4後		2		○								兼1	
経済学概論1		1・2・3・4前		2		○								兼1	
経済学概論2		1・2・3・4後		2		○								兼1	
国際経済学1	3・4前		2		○								兼1		

教育課程等の概要																
(文学部 歴史学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
講義	C	国際経済学 2		2		○									兼1	
		社会学総論 1	1・2・3・4前	2		○									兼1	
		社会学総論 2	1・2・3・4後	2		○									兼1	
小計 (57科目)		—	0	114	0	—			5	0	2	0	0	兼30		
実践研究	A	歴史学基礎演習 1	1後	4			○				1				兼1	
		歴史学基礎演習 2	1後	4			○					2				
		歴史学基礎演習 3	1後	4			○				1				兼1	
		歴史学基礎演習 4	1後	4			○					2				
	B	日本古代史料を読む 1	2・3・4前	2			○			1						
		日本古代史料を読む 2	2・3・4後	2			○			1						
		日本中世史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		日本中世史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		日本近世史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		日本近世史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		日本近現代史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		日本近現代史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		中国古代・中世史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		中国古代・中世史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		中国近世・近代史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		中国近世・近代史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		交流史料を読む 1	2・3・4前	2			○								兼1	
		交流史料を読む 2	2・3・4後	2			○								兼1	
		交流史料を読む 3	2・3・4前	2			○								兼1	
		交流史料を読む 4	2・3・4後	2			○								兼1	
		西洋史文献を読む 1	2・3・4前	2			○			1						
		西洋史文献を読む 2	2・3・4後	2			○			1						
		古文書解読法 1	1・2・3・4通	4			○			1						兼1
		古文書解読法 2	1・2・3・4通	4			○				1					兼1
		古文書演習 1	2・3・4前	2			○			1						
		古文書演習 2	2・3・4後	2			○									兼1
		漢文訓読法 1	1・2・3・4前	2			○				1					
		漢文訓読法 2	1・2・3・4後	2			○				1					
		歴史学特殊演習 1	2・3・4前	2			○									兼1
		歴史学特殊演習 2	2・3・4後	2			○									兼1
		歴史学特殊演習 3	2・3・4前	2			○				1					
		歴史学特殊演習 4	2・3・4後	2			○				1					
	文化財調査演習 1	2・3・4後	2			○			2		1				集中	
	文化財調査演習 2	2・3・4前	2			○									兼1	
	文化財調査演習 3	2・3・4後	2			○									兼1	
	文化財調査演習 4	2・3・4前	2			○									兼1	
展示実習	4後	2					○	3		1				集中		
博物館展示論	3後	2					○	2		1						
京都探究調査演習 1	2・3・4前	2					○			1						
京都探究調査演習 2	2・3・4後	2					○			1						
小計 (97科目)		—	16	76	0	—			4	1	2	2	0	兼16		
卒業研究	卒業研究	4通	8				○		8	1	2					
小計 (1科目)		—	8	0	0	—			8	1	2	0	0	0		
現代総合科目	キャリア形成系科目	キャリアデザイン概論 1	1・2・3・4前	2			○								兼1	
		キャリアデザイン概論 2	1・2・3・4後	2			○								兼1	
		キャリアデザイン実践 1	2・3・4後	2			○								兼1	
		キャリアデザイン実践 2	3・4前	2			○								兼1	
		インターンシップ 1 大学コンソ京都	2・3後	2				○							兼1	集中
		インターンシップ 2 大谷大学	1・2・3・4後	2				○							兼1	集中
		インターンシップ 3 学校 (教職)	3・4後	2				○							兼1	集中

教育課程等の概要																	
(文学部 歴史学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
現代総合科目	キャリア形成系科目	探究基礎演習		2			○							兼1	集中		
		思考法入門		2			○								兼1		
		大学での学びを知る		2			○								兼1		
		日本国憲法1		2			○								兼1		
		日本国憲法2		2			○								兼1		
		日本国憲法3		2			○								兼1		
		ポルトガル語圏のくらしと言葉1		2			○								兼1		
		ポルトガル語圏のくらしと言葉2		2			○								兼1		
		デジタル人文学概論		2			○								兼1		
		情報メディアと社会		2			○								兼1		
		人文学とコンピュータ		2			○								兼1		
		デジタル時代の知的財産権		2			○								兼1		
		ワード・プロセッシング入門		2				○							兼1		
		ワード・プロセッシング応用		2				○							兼1		
		PC利用による表計算入門		2				○							兼1		
		PC利用による表計算応用		2				○							兼1		
		PC利用によるプレゼンテーション		2				○							兼1		
		PC利用によるレポート・論文技法		2				○							兼1		
		画像処理入門		2				○							兼1		
		画像処理応用		2				○							兼1		
		PCミュージック入門		2				○							兼1		
		PCミュージック応用		2				○							兼1		
		Webサイト構築入門		2				○							兼1		
		Webサイト構築応用		2				○							兼1		
		人文学データベース入門		2				○							兼1		
		日本語表現（入門）1		2				○							兼7		
		日本語表現（入門）2		2				○							兼7		
		日本語表現（実践）		2				○							兼1		
		発想から表現へ		2				○							兼1		
		小計（36科目）		—	0	72	0	—			0	0	0	0	0	兼29	
		自然生命系科目	自然と生物の科学	自然と生物の科学		2			○							兼1	
				地震と火山1		2			○							兼1	
				地震と火山2		2			○							兼1	
				地球科学1		2			○							兼1	
				地球科学2		2			○							兼1	
				惑星科学		2			○							兼1	
地球環境と生命の共進化				2			○							兼1			
生命のしくみと多様性				2			○							兼1			
化石の科学				2			○							兼1			
星の世界				2			○							兼1			
こころの科学				2			○							兼1			
人間理解の心理学				2			○							兼1			
人間関係の心理学1				2			○							兼1			
人間関係の心理学2				2			○							兼1			
コミュニケーションの心理学				2			○							兼1			
健康心理学				2			○							兼1			
行動の科学1				2			○							兼1			
行動の科学2				2			○							兼1			
脳とこころ				2			○							兼1			
カウンセリング				2			○							兼1			
障害者・病者と共に生きる				2			○							兼1			
スポーツと健康の科学1				2			○							兼1			
スポーツと健康の科学2		2			○							兼1					
人間関係と身体表現		2			○							兼1					

教育課程等の概要														
(文学部 歴史学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
自然生命系科目	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4前		2		○								兼1
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後		2		○								兼1
	スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2			○							兼1
	スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2			○							兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2			○							兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2			○							兼1
	身体活動Ⅰ	1・2・3・4前		1				○						兼3
	身体活動Ⅱ	1・2・3・4後		1				○						兼3
	身体活動Ⅰ（障害者スポーツ）	1・2・3・4前		1				○						兼1
身体活動Ⅱ（障害者スポーツ）	1・2・3・4後		1				○						兼1	
小計（34科目）		—	0	64	0	—			0	0	0	0	0	兼18
現代総合科目 歴史文化系科目	ドイツの歴史と文学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	中国の歴史と文学	1・2・3・4前		2		○								兼1
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後		2		○								兼1
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後		2		○								兼1
	漢字の世界	1・2・3・4後		2		○								兼1
	近代日本とアジア	1・2・3・4後		2		○								兼1
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	教育学1	1・2・3・4前		2		○								兼1
	教育学2	1・2・3・4後		2		○								兼1
	ドイツの言語文化	1・2・3・4後		2		○								兼1
	ドイツの民衆文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	フランスの言語文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	フランスの民衆文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	中国の言語文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	中国の民衆文化	1・2・3・4後		2		○								兼1
	ヨーロッパの宗教と文化（ドイツ）	1・2・3・4後		2			○							兼1 集中
	ヨーロッパの宗教と文化（フランス）	1・2・3・4後		2			○							兼1 集中
	ヒマラヤの祈り	1・2・3・4前		2		○								兼1
	チベットを見た日本人たち	1・2・3・4後		2		○								兼1
	モンゴル草原の祈り	1・2・3・4後		2		○								兼1
	朝鮮半島の美術	1・2・3・4前		2		○								兼1
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前		2		○								兼1
	インドの神々	1・2・3・4前		2		○								兼1
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4後		2		○				1				兼1
	仏教と美術	1・2・3・4後		2		○								兼1 集中
	インドの宗教と文化	1・2・3・4後		2			○							兼2 集中
	中国の宗教と文化	1・2・3・4後		2			○							兼1 集中
	人と文化	2・3・4後		2		○								兼1
	人と宗教	1・2・3・4前		2		○								兼1
	芸術表現	1・2・3・4前		2			○							兼1
	ブッダに学ぶ	1・2・3・4前		2		○								兼1
	親鸞に学ぶ	1・2・3・4後		2		○								兼1
	仏教福祉論	1・2・3・4後		2		○								兼1
	部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前		2		○								兼1
部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
部落史論1	1・2・3・4前		2		○								兼1	
部落史論2	1・2・3・4後		2		○								兼1	
反カースト運動論	1・2・3・4後		2		○								兼1	
アイヌ民族と共に	1・2・3・4後		2		○								兼1	
アジア侵略と宗教	1・2・3・4後		2		○								兼1	
非戦の系譜	1・2・3・4前		2		○								兼1	

教 育 課 程 等 の 概 要														
(文学部 歴史学科)														
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
	小計（43科目）	—	0	86	0	—	—	—	0	1	0	0	0	兼34
	合計（381科目）	—	192	412	0	—	—	—	8	1	2	2	0	兼198
学位又は称号		学士			学位又は学科の分野			文学関係						
卒業要件及び履修方法							授業期間等							
①共通基礎科目22単位以上（人間学Ⅰ・Ⅱ8単位、大学導入科目2単位、必修外国語12単位） ※必修単位以上の外国語学習を望む者のために「選択外国語」を開講し、学生の興味 関心により履修する ②学科専門科目66単位以上（演習16単位、概論8単位、講義[A]8単位以上、講義[B]8単 位以上、実践研究[A]4単位、実践研究[B]12単位以上、卒業研究8単位を修得） ③現代総合科目12単位以上（キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系から各4単位以上 を修得） ①～③の科目について、指導教員の履修指導のもと、幅広く学習し124単位以上を履修する *履修科目の登録単位数の上限は、年間48単位まで							1学年の学期区分		2期					
							1学期の授業期間		15週					
							1時限の授業時間		90分					

(注)

- 1 学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

教育課程等の概要														
(文学部 文学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合科目	人間学Ⅰa	1前	2			○							兼2	
	人間学Ⅰb	1後	2			○							兼2	
	人間学Ⅱ	2・3・4前・後	2			○				1			兼17	
大学導入	学びの発見	1前	2			○						1		
必修 外国語	外国語Ⅰ	英語Ⅰa	1前	1			○							兼34
		英語Ⅰb	1後	1			○							兼34
		ドイツ語Ⅰa	1前	2			○							兼5
		ドイツ語Ⅰb	1後	2			○							兼5
		フランス語Ⅰa	1前	2			○							兼3
		フランス語Ⅰb	1後	2			○							兼3
		中国語Ⅰa	1前	2			○			1				兼7
		中国語Ⅰb	1後	2			○			1				兼7
	外国語Ⅱ	韓国・朝鮮語Ⅰa	1前	2			○							兼4
		韓国・朝鮮語Ⅰb	1後	2			○							兼4
		英語Ⅱa	2前	1			○							兼18
		英語Ⅱb	2後	1			○							兼18
		ドイツ語Ⅱa	2前	2			○							兼2
		ドイツ語Ⅱb	2後	2			○							兼2
		フランス語Ⅱa	2前	2			○							兼1
		フランス語Ⅱb	2後	2			○							兼1
共通基礎科目 選択外国語	英語読解（中級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語読解（中級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語読解（中級）3	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語読解（中級）4	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英作文（中級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英作文（中級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英文法（中級）1	1・2・3・4前	1			○			1					
	英文法（中級）2	1・2・3・4後	1			○			1					
	英語のしくみと表現（中級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語のしくみと表現（中級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語会話（中級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語会話（中級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語会話（中級）3	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語会話（中級）4	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語会話（中級）5	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語会話（中級）6	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語読解（上級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語読解（上級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1	
	英語読解（上級）3	1・2・3・4前	1			○							兼1	
	英語読解（上級）4	1・2・3・4後	1			○							兼1	
英語会話（上級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1		
英語会話（上級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1		
英語会話（上級）3	1・2・3・4前	1			○							兼1		
英語会話（上級）4	1・2・3・4後	1			○							兼1		
英作文（上級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1		
英作文（上級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1		
英文法（上級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1		
英文法（上級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1		
インテンシブ英会話（中級）1	1・2・3・4前	4			○							兼4		
インテンシブ英会話（中級）2	1・2・3・4後	4			○							兼4		
カナダ文化研究・実践英語	1・2・3後	4			○							兼2	集中	
ドイツ語読解（初級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1		
ドイツ語読解（初級）2	1・2・3・4後	1			○							兼1		
ドイツ語会話（初級）1	1・2・3・4前	1			○							兼1		

教育課程等の概要																	
(文学部 文学科)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通基礎科目	選択外国語	ドイツ語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1	集中 集中	
		ドイツ語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		ドイツ語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		ドイツ語読解（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		ドイツ語読解（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		フランス語読解（初級）	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		フランス語会話（初級）	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		フランス語読解（中級）	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		フランス語会話（中級）	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		フランス語のしくみと表現（上級）	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		フランス語のしくみと表現（初級）	1・2・3・4前	2				○							兼1		
		中国語読解（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語読解（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国語会話（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国語会話（初級）3	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語会話（初級）4	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国語会話（中級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語会話（中級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国語会話（上級）1	1・2・3・4前	1				○							兼1		
		中国語会話（上級）2	1・2・3・4後	1				○							兼1		
		中国文化事情・実践中国語1	1・2・3・4後	4				○			1						兼1
		中国文化事情・実践中国語2	1・2・3・4後	4				○									兼1
		韓国・朝鮮語会話（初級）1	1・2・3・4前	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語会話（初級）2	1・2・3・4後	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）1	1・2・3・4前	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語のしくみと表現（初級）2	1・2・3・4後	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語読解（中級）	1・2・3・4後	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語会話（中級）	1・2・3・4前	1				○									兼1
		韓国・朝鮮語読解（上級）	1・2・3・4前	1				○									兼1
		韓国文化研究・実践韓国語	1・2・3・4後	4				○									兼1
		現代チベット語 a	2・3・4前	1				○									兼1
現代チベット語 b	2・3・4後	1				○								兼1			
ラテン語入門1	1・2・3・4前	1				○								兼1			
ラテン語入門2	1・2・3・4後	1				○								兼1			
ヒンディー語 a	1・2・3・4前	1				○								兼1			
ヒンディー語 b	1・2・3・4後	1				○								兼1			
小計(97科目)		—	136	0	0	—			2	1	0	1	0	兼91			
学科専門科目	演習	文学科演習Ⅰ a	1前	2				○		1	1	2					
		文学科演習Ⅰ b	1後	2				○		2	1	1					
		文学科演習Ⅱ a	2前	2				○		2	1	1					
		文学科演習Ⅱ b	2後	2				○		2	1	1					
		文学科演習Ⅲ a	3前	2				○		2	3	2					
		文学科演習Ⅲ b	3後	2				○		2	3	2					
		文学科演習Ⅳ a	4前	2				○		2	3	2					
		文学科演習Ⅳ b	4後	2				○		2	3	2					
	小計(8科目)		—	16	0	0	—			4	2	2	0	0	0		
	概論	国文学概論1	1・2・3・4前	2				○		1							
国文学概論2		1・2・3・4後	2				○		1								
国語学概論1		1・2・3・4前	2				○			1							
国語学概論2		1・2・3・4後	2				○			1							
中国文学概論1		1・2・3・4前	2				○		1								
中国文学概論2		1・2・3・4後	2				○		1								
現代文芸概論1	1・2・3・4前	2				○		1									
現代文芸概論2	1・2・3・4後	2				○		1									
小計(8科目)		—	16	0	0	—			3	1	0	0	0	0			

教育課程等の概要																
(文学部 文学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目	A	日本文学史1		2		○				1						
		日本文学史2		2		○					1					
		国文法講義1		2		○				1						
		国文法講義2		2		○				1						
		中国語学講義1		2		○			1							
		中国語学講義2		2		○			1							
		文藝塾講義1		2		○					1					
		文藝塾講義2		2		○					1					
	書道		2		○										兼1	
	B	古典文学1		2		○										兼1
		古典文学2		2		○										兼1
		古典文学3		2		○										兼1
		古典文学4		2		○										兼1
		近現代文学1		2		○										兼1
		近現代文学2		2		○										兼1
		文章表現学1		2		○							1			
		文章表現学2		2		○							1			
		中国文学史1		2		○										兼1
		中国文学史2		2		○										兼1
		中国思想史1		2		○										兼1
		中国思想史2		2		○										兼1
		中国文献学1		2		○										兼1
		中国文献学2		2		○										兼1
		アメリカ文学講義1		2		○					1					
	アメリカ文学講義2		2		○					1						
	イギリス文学講義1		2		○				1							
	イギリス文学講義2		2		○				1							
	ドイツ近現代文学1		2		○										兼1	
	ドイツ近現代文学2		2		○										兼1	
	C	仏教文学特殊講義1		2		○										兼1
		仏教文学特殊講義2		2		○										兼1
		中国文学特殊講義1		2		○										兼1
		中国文学特殊講義2		2		○										兼1
小計 (33科目)				0	66	0		—		2	3	1	1	0	兼12	
実践研究	A	文学鑑賞1		2		○			4	1	2					
		文学鑑賞2		2		○			4	1	2					
		漢文訓読演習1		2		○									兼1	
		漢文訓読演習2		2		○									兼1	
		文藝塾実践演習Ⅰa		2		○			1		1					
		文藝塾実践演習Ⅰb		2		○			1		1					
	B	古典文学講読1		2		○										兼1
		古典文学講読2		2		○										兼1
		古典文学講読3		2		○										兼1
		古典文学講読4		2		○										兼1
		近現代文学講読1		2		○										兼1
		近現代文学講読2		2		○										兼1
		近現代文学講読3		2		○						1				
		近現代文学講読4		2		○						1				
中国文学講読1		2		○			1									
中国文学講読2		2		○			1									
言語技術演習		2		○			1									
文学教材講読		2		○										兼1		
文藝塾実践演習Ⅱa		2		○			1		1							
文藝塾実践演習Ⅱb		2		○			1		1							

教育課程等の概要																
(文学部 文学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
学科専門科目	実践研究 C	仏教文学特殊演習1		2			○							兼1		
		仏教文学特殊演習2		2			○							兼1		
		中国文学特殊演習1		2			○							兼1		
		中国文学特殊演習2		2			○							兼1		
	小計 (24科目)		—	0	48	0	—		4	1	1	0	0	兼8		
卒業研究	卒業研究	4通	8				○		2	3	2					
		小計 (1科目)	—	8	0	0	—		2	3	2	0	0	0		
現代総合科目	キャリア形成系科目	キャリアデザイン概論1	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		キャリアデザイン概論2	1・2・3・4後	2			○							兼1		
		キャリアデザイン実践1	2・3・4後	2			○							兼1		
		キャリアデザイン実践2	3・4前	2			○							兼1		
		インターンシップ1 大学コンソ京都	2・3後	2				○						兼1	集中	
		インターンシップ2 大谷大学	1・2・3・4後	2				○						兼1	集中	
		インターンシップ3 学校（教職）	3・4後	2				○						兼1	集中	
		探究基礎演習	1・2・3・4後	2				○		1					兼1	集中
		思考法入門	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		大学での学びを知る	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		日本国憲法1	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		日本国憲法2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		日本国憲法3	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		ポルトガル語圏のくらしと言葉1	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		ポルトガル語圏のくらしと言葉2	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		デジタル人文学概論	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		情報メディアと社会	1・2・3・4前	2				○							兼1	
		人文学とコンピュータ	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		デジタル時代の知的財産権	2・3・4前	2				○							兼1	
		ワード・プロセッシング入門	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		ワード・プロセッシング応用	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		PC利用による表計算入門	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		PC利用による表計算応用	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		PC利用によるプレゼンテーション	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		PC利用によるレポート・論文技法	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		画像処理入門	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		画像処理応用	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		PCミュージック入門	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		PCミュージック応用	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		Webサイト構築入門	1・2・3・4前	2					○						兼1	
		Webサイト構築応用	1・2・3・4後	2					○						兼1	
		人文学データベース入門	1・2・3・4後	2				○							兼1	
		日本語表現（入門）1	1・2前	2					○						兼7	
		日本語表現（入門）2	1・2後	2					○						兼7	
		日本語表現（実践）	2・3・4前	2					○						兼1	
		発想から表現へ	1・2・3・4後	2					○						兼1	
小計 (36科目)		—	0	72	0	—		1	0	0	0	0	兼28			
自然生命系科目	自然と生物の科学	自然と生物の科学	1・2・3・4後	2			○							兼1		
		地震と火山1	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		地震と火山2	1・2・3・4後	2			○							兼1		
		地球科学1	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		地球科学2	1・2・3・4後	2			○							兼1		
		惑星科学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		地球環境と生命の共進化	1・2・3・4後	2			○							兼1		
		生命のしくみと多様性	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		化石の科学	1・2・3・4前	2			○							兼1		
		星の世界	1・2・3・4後	2			○							兼1		

教育課程等の概要															
(文学部 文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
自然生命系科目	こころの科学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	人間理解の心理学	1・2・3・4後		2		○									兼1
	人間関係の心理学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	人間関係の心理学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	コミュニケーションの心理学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	健康心理学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行動の科学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	行動の科学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	脳とこころ	1・2・3・4前		2		○									兼1
	カウンセリング	2・3・4後		2		○									兼1
	障害者・病者と共に生きる	1・2・3・4前		2		○									兼1
	スポーツと健康の科学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	スポーツと健康の科学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	人間関係と身体表現	1・2・3・4前		2		○									兼1
	生涯スポーツ・レクリエーション活動	1・2・3・4前		2		○									兼1
	障害者スポーツ論	1・2・3・4後		2		○									兼1
	スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1
	スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅰ	2・3・4前		2			○								兼1
	障害者スポーツ研究演習Ⅱ	2・3・4後		2			○								兼1
身体活動Ⅰ	1・2・3・4前		1				○							兼3	
身体活動Ⅱ	1・2・3・4後		1					○						兼3	
身体活動Ⅰ（障害者スポーツ）	1・2・3・4前		1					○						兼1	
身体活動Ⅱ（障害者スポーツ）	1・2・3・4後		1					○						兼1	
小計（34科目）		—	0	64	0	—			0	0	0	0	0	0	兼18
現代総合科目	ドイツの歴史と文学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	中国の歴史と文学	1・2・3・4前		2		○									兼1
	現代朝鮮半島事情	1・2・3・4後		2		○									兼1
	現代東南アジア事情	1・2・3・4後		2		○									兼1
	漢字の世界	1・2・3・4後		2		○									兼1
	近代日本とアジア	1・2・3・4後		2		○									兼1
	古都の歴史と文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	教育学1	1・2・3・4前		2		○									兼1
	教育学2	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ドイツの言語文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ドイツの民衆文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	フランスの言語文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	フランスの民衆文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	中国の言語文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	中国の民衆文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	ヨーロッパの宗教と文化（ドイツ）	1・2・3・4後		2			○								兼1 集中
	ヨーロッパの宗教と文化（フランス）	1・2・3・4後		2			○								兼1 集中
	ヒマラヤの祈り	1・2・3・4前		2		○									兼1
	チベットを見た日本人たち	1・2・3・4後		2		○									兼1
	モンゴル草原の祈り	1・2・3・4後		2		○									兼1
	朝鮮半島の美術	1・2・3・4前		2		○									兼1
	東南アジアの宗教文化	1・2・3・4前		2		○									兼1
	インドの神々	1・2・3・4前		2		○									兼1
	東アジアの宗教文化	1・2・3・4後		2		○									兼1
	仏教と美術	1・2・3・4後		2		○									兼1 集中
	インドの宗教と文化	1・2・3・4後		2			○								兼2 集中
	中国の宗教と文化	1・2・3・4後		2			○								兼1 集中
人と文化	2・3・4後		2		○									兼1	
人と宗教	1・2・3・4前		2		○									兼1	

教育課程等の概要															
(文学部 文学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
現代総合科目	歴史文化系科目	芸術表現	1・2・3・4前	2				○							兼1
		ブッダに学ぶ	1・2・3・4前	2			○								兼1
		親鸞に学ぶ	1・2・3・4後	2			○								兼1
		仏教福祉論	1・2・3・4後	2			○								兼1
		部落差別と大谷派教団1	1・2・3・4前	2			○								兼1
		部落差別と大谷派教団2	1・2・3・4後	2			○								兼1
		部落差別と浄土真宗1	1・2・3・4前	2			○								兼1
		部落差別と浄土真宗2	1・2・3・4後	2			○								兼1
		部落史論1	1・2・3・4前	2			○								兼1
		部落史論2	1・2・3・4後	2			○								兼1
		反カースト運動論	1・2・3・4後	2			○								兼1
		アイヌ民族と共に	1・2・3・4後	2			○								兼1
		アジア侵略と宗教	1・2・3・4後	2			○								兼1
		非戦の系譜	1・2・3・4前	2			○								兼1
小計 (43科目)			—	0	86	0	—			0	0	0	0	0	兼35
合計 (284 科目)			—	176	336	0	—			6	3	2	2	0	兼168
学位又は称号		学士		学位又は学科の分野				文学関係							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
①共通基礎科目22単位以上（人間学Ⅰ・Ⅱ8単位、大学導入科目2単位、必修外国語12単位） ※必修単位以上の外国語学習を望む者のために「選択外国語」を開講し、学生の興味関心により履修する ②学科専門科目66単位以上（演習16単位、概論8単位、講義[A]8単位以上、講義[B・C]12単位以上、実践研究[A・B・C]のなかから14単位以上、卒業研究8単位を修得） ③現代総合科目12単位以上（キャリア形成系、自然生命系、歴史文化系から各4単位以上を修得） ①～③の科目について、指導教員の履修指導のもと、幅広く学習し124単位以上を履修する *履修科目の登録単位数の上限は、年間48単位まで							1 学年の学期区分		2期						
							1 学期の授業期間		15週						
							1 時限の授業時間		90分						

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の設置又は大学における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学若しくは高等専門学校等の取容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

新学部設置前後の学部・学科ごとの志願者数と志願倍率の推移

学部・学科 (2017年度以前)		入学定員	平成28(2016)年度		平成29(2017)年度		学部・学科 (2018年度以降)		入学定員	平成30(2018)年度			平成31(2019)年度		
			志願者数	志願倍率	志願者数	志願倍率				志願者数	対29年度比	志願倍率	志願者数	対29年度比	志願倍率
文学部	真宗学科	70	106	1.5	119	1.7	文学部	真宗学科	60	153	1.29	2.6	200	1.68	3.3
	仏教学科	25	44	1.8	67	2.7		仏教学科	25	99	1.48	4.0	109	1.63	4.4
	哲学科	60	167	2.8	162	2.7		哲学科	50	421	2.60	8.4	514	3.17	10.3
	歴史学科	100	537	5.4	531	5.3		歴史学科	100	893	1.68	8.9	1,021	1.92	10.2
	文学科	70	420	6.0	442	6.3		文学科	70	739	1.67	10.6	903	2.04	12.9
	国際文化学科	100	312	3.1	378	3.8		国際文化学科	90	877	2.32	9.7	814	2.15	9.0
	社会学科	120	627	5.2	624	5.2	社会学部	現代社会学科	120	1,466	2.35	12.2	1,368	2.19	11.4
	人文情報学科	100	247	2.5	288	2.9		コミュニティデザイン学科	100	767	2.66	7.7	979	3.40	9.8
	教育・心理学科	100	542	5.4	625	6.3	学教育部	教育学科	130	1,088	1.74	8.4	1,309	2.09	10.1
大学計	745	3,002	4.0	3,236	4.3	大学計	745	6,503	2.01	8.7	7,217	2.23	9.7		

文学部歴史学科・文学科 一般入試制度ごとの
募集人員・志願者数・志願倍率の推移と改善予測

▼一般入試[第1期]

学 科	募集人員			志 願 者 数			志 願 倍 率		
	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)*	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)
歴 史 学 科	25	25	<u>30</u>	318	398	393	12.7	15.9	<u>13.1</u>
文 学 科	19	19	<u>25</u>	284	358	353	14.9	18.8	<u>14.1</u>

* 平成31年度志願者数に近畿地区減少率 0.987 (リクルート進学総研調べ)を乗し減じたと仮定した志願者数

▼一般入試[第2期]

学 科	募集人員			志 願 者 数			志 願 倍 率		
	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)*	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)
歴 史 学 科	4	<u>5</u>	5	45	51	50	11.3	10.2	10.1
文 学 科	3	3	3	30	51	50	10.0	17.0	16.8

* 平成31年度志願者数に近畿地区減少率 0.987 (リクルート進学総研調べ)を乗し減じたと仮定した志願者数

▼一般入試[第3期]

学 科	募集人員			志 願 者 数			志 願 倍 率		
	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)*	平成30年度	平成31年度	(平成32年度)
歴 史 学 科	4	<u>7</u>	7	100	77	76	25.0	11.0	10.9
文 学 科	3	5	<u>7</u>	80	93	92	26.7	18.6	<u>13.1</u>

* 平成31年度志願者数に近畿地区減少率 0.987 (リクルート進学総研調べ)を乗し減じたと仮定した志願者数

慶聞館

K Y O M O N K A N

【典拠】

親鸞『教行信証』総序

斯以慶所聞、嘆所獲矣。

(ここをもって、聞くところを慶び、獲るところを嘆ずるなりと。)

自ら創る
「学び」の
かたち

伝統を、
社会に開き、
未来へつなぐ

多様な教育空間を表現し、
主体的な学びをサポートします。

大谷  大学





キャンパス整備の 理念・コンセプト

自ら創る「学び」のかたち — 伝統を、社会に開き、未来へつなぐ —

本学は、教育・研究力のより一層の充実を図り、学生が主体的に学ぶことができる新しい環境づくりを目指して、2018年完成を目標に、新教室棟の建築を含めた本部キャンパスの総合整備に着手しました。これは、2014年に築53年となる既存の研究室棟（開思館）・事務室棟（至誠館）や2015年に築50年となる教室棟（1号館旧館部分）等の建て替えという、長期整備計画に基づく取り組みではありますが、本学の伝統を踏まえつつ、未来を見据えた新たな本学を創造する事業として計画しました。新しい本学については、すでに2011年に、その構想を表した「大谷大学グランドデザイン」が発表されています。そこでは、初代学長清沢満之と第3代学長佐々木月樵によって示された建学の理念をもとに、大谷大学を「仏教を基盤として、人間の真の立脚地を問う」大学であると確認しています。その上で、教育のビジョンを「仏教精神に基づき、社会を主体的に生きることのできる人物を養成する」ものとして示しています。この度の新教室棟建設及びキャンパス整備計画は、長期的な大学運営構想に立った計画ではありますが、具体的には「グランドデザイン」に示された5つの基本方針を総合的に実現するための取り組みであります。

大谷大学グランドデザイン 5つの基本方針

[教育に関する方針] 社会に貢献し 活躍できる能力の育成	[学生支援に関する方針] 学修に専念し、 充実した学生生活を支援	[研究に関する方針] 学術交流の活性化	[社会貢献に関する方針] 幅広く社会との連携を 図る教育活動	[管理運営に関する方針] ユニバーサルデザインや環境に 十分配慮した、新たなキャンパス整備
--	--	-------------------------------	--	---





学生ロビーを中心に多様な教育空間を実現し
主体的な学びをサポート



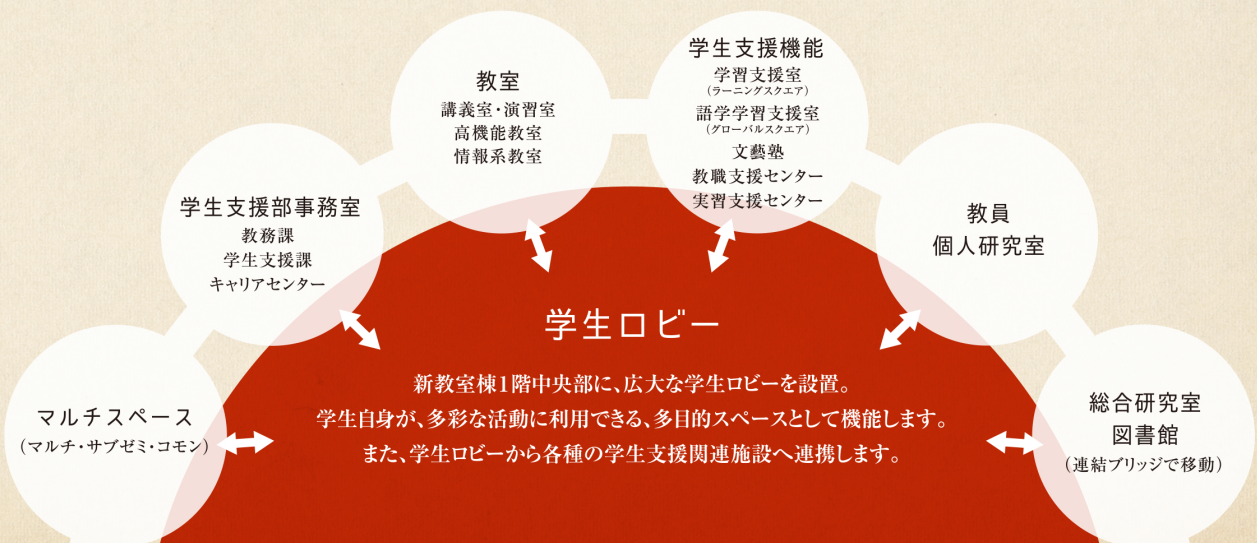
■キャリアセンター



■語学学習支援室[グローバルスクエア]



■マルチスペース



主体的な学びのサポート機能

学生の学びや活動を有機的にサポートし、アクティブラーニングも展開するなど、さまざまに活用されるスペースとしてマルチスペース(マルチ・サブゼミ・コモン)を各階に配置

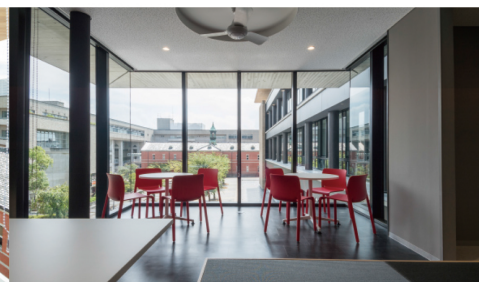


1F 学生ロビー
(合計178席／屋内130席・屋外48席)



2F～5F マルチスペース

各階3カ所に設けられたマルチスペースは、大谷大学のシンボルでもある尋源館を望む空間。100年間継承されて来た建学の精神を、さらに未来につなぐ「赤レンガ」を眺めながら、学生と教員、学生同士が交流を図り、アクティブラーニングを展開するなど、さまざまに活用されるスペースです。



2F/4F サブゼミスペース[プロジェクタ・ホワイトボード完備]
ユニークな視点で設置されているのが、マルチスペース(サブゼミ)。2階は3階にかけた吹き抜けも利用し、開放的な空間でお互いに刺激を受けながら利用できるスペース。ユニークなスタイルで参加できる学びの機会を創出するスペースとします。



5F コモンスペース[大型モニター・ホワイトボード完備]
マルチスペース(コモン)は、グループワークやミーティングなど、アクティブラーニングへの取り組みに対応したオープンスペース。大型モニターやホワイトボードが自由に利用できるよう設計され、ラーニング・コモンズという自由な発想で、学生の自主的で活発な学びのスタイルを可能にするスペースです。



4F 響流館への連結ブリッジ

新教室棟「慶聞館」4階と、図書館・総合研究室・博物館・真宗総合研究所が配置される響流館3階との移動がスムーズに実現するブリッジです。



吹抜け[館内重力換気]

1階から5階に抜ける中央の吹き抜けは、上階につれて開口部を広くした設計とし、暖まった空気を屋外に排気する構造となっています。



4F/5F 個人研究室

教員の研究活動と学生の学びを支援するために、プライバシーと開放性を両立できるよう整備。



1F 語学学習支援室



1F 文藝塾



1F 学習支援室



1F 学生支援部事務室



教室

スクール形式の授業だけでなく、多様な授業形態に対応する移動機タイプの教室を多数配置。全館のWi-FiをはじめとするLAN設備と、さまざまなデバイスを扱うAV設備が充実しています。
※教室名は4桁(K000)の番号で表記

1階中央エントランスに広がる学生ロビーを中心に、多様な教育空間を有機的に配置し、自らの「学び」が実現するようにサポートします。

中央エリアの1F中央部には、学生自身のさまざまな活動に利用できる多目的のスペースとしての機能を備えた広大な「学生ロビー」を配置し、その周辺にキャリアセンターをはじめとする学生生活のサポートを行う事務室が設置されています。また、学生ロビーの周囲には、大学での基礎的な学習を個別に支援する「学習支援室(LEARNING SQUARE)」、留学・語学学習活動を幅広く支援する「語学学習支援室(GLOBAL SQUARE)」、学習・研究活動の基盤となる読み書きの高度な学修環境を提供する「文藝塾」を集約するなど、多彩な教育空間を実現しました。